

家庭学習の考え方、宿題の内容と個人差を考慮した与え方、予習的・復習的内容が多いのでこれを課した後の処理、成功感を味わう等の処理の仕方等について話し合いがなされた。

④ 中学校部会

ア. 研究発表者 中妻中学校教諭 曾部 健  
夏井中学校教頭 根本 博

イ. 研究協議 イ. 研究協議

課題提示の方法、家庭学習の習慣化のため生徒個人に家庭学習の計画をたてる等について実践をとおしての研究協議がもたれた。

⑤ 分校部会

ア. 研究主題

「小人数における個別化指導はどのようにすればよいか」

イ. 研究発表者 瀬川小学校石沢分校教諭 菅野 堅一  
夏井第一小学校湯沢分校 木村 勝夫

ウ. 研究協議

小人数における個別化学習をどの位置にどのように行ない効果をあげたらよいか、遅進児の指導をどのようにしたらよいかについて焦点をあてて話し合いがもたれた。

(3) 浜通り方部

① 期日 11月25日

② 会場 双葉郡川内村立川内第三小学校

③ 研究主題

「山村における児童生徒の学習を活発にするにはどうすればよいか」

④ 研究発表者 入遠野小学校教諭 佐藤 登  
津島小学校手七郎分校教諭安齋大覚  
三阪中学校教諭 鈴木忠昌  
大倉中学校教諭 西啓太郎  
長沢小学校教諭 菅野健治

⑤ 研究協議

小学校部会においては、現有学力の実態からの教科指導の進め方、とくに読書指導に視点を置いて研究を深めていった。また分校経営について安齋教諭の発表を中心として話し合いがもたれた。

中学校部会では、生徒の学力向上について討議された。学習意欲を高める指導、予復習の指導、家庭学習といった多岐にわたっての話し合いがもたれ、今後の山村教育に裨益するところ大であった。

(3) 会津方部

① 期日 10月28日

② 会場 河沼郡柳津町立柳津小学校

③ 研究主題

「山村へき地における学力向上をはかるための学習指導の効果的運営をどうするか」

④ 第1分科会

ア. 研究主題

「複式学級におけるカリキュラム編成上の問題と学習指導をどうしたらよいか」

イ. 研究発表者 館岩小学校教諭 芳賀 龜弥  
松原小学校教諭 佐々木正夫

ウ. 研究協議

複式カリキュラム編成と教科書の使用、シート式磁気録音機の利用上の留意点等について研究がもたれた。

⑤ 第2分科会

ア. 研究主題

「山村へき地における理科指導の問題点について」

イ. 研究発表者 江川小学校教諭 佐藤正幸  
元山小学校教諭 鈴木正敏

ウ. 研究協議

へき地は文化的施設には恵まれないが、理科指導にあたっては自然的環境の利用、複式理科指導とくに同単元学習指導について話し合いがもたれ、最後に現有設備の活用と自作教具のありかたについても討議された。

⑥ 第3分科会

ア. 研究主題

「山村へき地において学習指導を高めるために視聴覚教具をいかに活用するか」

イ. 研究発表者 猪苗代小学校教諭 鈴木 昭夫  
玉梨小学校教諭 五十嵐一光

ウ. 研究協議

分校における教材費の効率的な運用、シート式磁気録音機の設備と利用の指導技術について協議がもたれ、シートの作り方、使い方の訓練、聴き方の訓練等事前、事後の指導のあり方について話し合いがもたれた。

⑦ 第4分科会

ア. 研究主題

「規模が小さな中学校の経営の問題点をいかに解決するか」

イ. 研究発表者 西方中学校 教諭 松谷 弘平  
山都第三中学校教諭 笠間三男也

ウ. 研究協議

管理面としては、免許教科以外のことについてどう運営することが望ましいか、中学校における分校経営上の問題点、生徒に自主性を高め発表力を高めるにはどのような手だてが必要か、また現職教育については、学校全体が目標をきめて自分の専門教科の教材研究に力を入れなければならない。

## 第9節 特殊教育

1 本県における特殊教育は県の重点施策として、その振興についても年々努力を続けてきているところであり、昭和41年度には、福島県立養護学校には、高等部の設立と分校の本校昇格、福島県立福島盲・ろう学校には幼稚部の設立をみたことは喜ばしいこ